

開講年度	毎年度	開講学期	前学期	プログラム区分	研究能力開発プログラム		
時間割番号	R310	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	4
担当講師	太田佳光 (Ohta Yoshimitsu)、鴛原進 (Oshihara Susumu)						
研修題目							
教育学部附属校園の保育・授業と学校経営 (education for young children, teaching in schools and school management on the faculty's school)							
研修のキーワード							
附属校園 (faculty's school)、授業 (teaching in schools)、学校経営 (school management)							
研修の目的							
教育学部の教員として、教育学部附属校園における保育・授業の様態を理解し、かつ今後の附属校園の学校園経営・経営方針を学ぶ。							
研修の到達目標							
(1) 附属校園における保育・授業の様態を説明することができる。				(3) 附属校園における保育・授業や学校経営・経営方針から自らの研究シーズを見つけることができる。			
(2) 附属校園の学校経営・経営方針を説明できる。							
研修の概要							
教育学部附属校園における保育・授業を観察し、教育実践成果について学習する。							
また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、実際に行われている授業実践とを対比し、今後の附属校園における研究の方向性を知り、学部教員が参画できる内容について考える。							
さらに、参観後に附属校園長の代表との協議を行い、附属校園における課題を共有し、研究シーズに気付くことができる。							
なお、附属校園は、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校とする。							
学習項目							
1. 教育学部附属校園長による講話				4. 共同研究参画にあたっての留意点と研究テーマなどに関する協議			
2. 附属校園における保育・授業の観察				5. 附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる			
3. 附属校園が自ら設定した研究の紹介							
研修時間外に求められる課題に関する情報							
附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
なし							
連絡先		附属校園表代表、鴛原進 oshihara@ed.ehime-u.ac.jp					
参照ホームページ							
その他		毎年、内容は同じであるため、複数回の受講を認めない。また、初任1年目の受講を推奨する。 担当講師は、合同研修会副会長 (附属校園長) と合同研修会運営委員とする。					

開講年度	毎年度	開講学期	前学期	プログラム区分	研究能力開発プログラム		
時間割番号	R311	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	統括研究コーディネーター						
研修題目							
教育学部附属校園による共同研究の手法と内容 (Joint research with faculty' s school)							
研修のキーワード							
附属校園(faculty' s school)、研究手法(research techniques)							
研修の目的							
教育学部の教員として、教育学部附属校園における共同研究の成果を理解し、かつ今後の共同研究の推進に必要な事柄を学ぶ。							
研修の到達目標							
(1) 附属校園における研究の目的を説明することができる。				(3) 各研究部における研究の推進方法を説明できる。			
(2) 学部附属であることの価値を活かせる研究の方法論を説明できる。				(4) 附属校園における研究を開始するための手法・手順を説明できる。			
研修の概要							
教育学部の教員と附属校園の教員による共同研究の成果発表を視聴し、その成果について学習する。							
また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、それらの研究の進捗状況を知り、学部教員が参画できる内容について理解する。							
さらに、各部会ごとに附属校園における課題を共有し、研究シーズに気付き、研究の開始にあたり、その手法について学習する。							
なお、部会として、教育経営、国語、社会、数学、理科、生活科・総合的学習、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、幼児教育、特別支援教育、英語、養護を設けているので、受講者はこれらの部会のいずれかに所属することが求められる。所属する部会は受講者が所属する課程・コースと関係が深い部会とすることとし、内容を深めるため、継続して同じ部会に所属することが望まれる。							
学習項目							
1. 教育学部長講話				4. 各部会における共同研究の紹介 (各部会ごとに開催)			
2. 学部と附属校園による共同研究による成果発表 (おおむね2件)				5. 共同研究参画にあたっての留意点と研究テーマなどに関して、統括研究コーディネーターと協議する			
3. 附属校園が自ら設定した研究の紹介							
研修時間外に求められる課題に関する情報							
なし							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
なし							
連絡先		統括研究コーディネーター					
参照ホームページ							
その他		毎年、成果発表の内容は異なるため、複数回の受講を認めることとし、そのたびに受講時間数を積み上げることができる。 教育学部に所属する者は、この RD プログラムの参加を必須とする。					

開講年度	毎年度	開講学期	後学期	プログラム区分	研究能力開発プログラム		
時間割番号	R316	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	4
担当講師	統括研究コーディネーター						
研修題目							
愛媛教育研究大会での研修 (Observation of Seminars are held on the faculty's school)							
研修のキーワード							
附属校園(faculty's school)、保育(education for young children)、授業(teaching in schools)、学校経営(school management)							
研修の目的							
教育学部附属校園における研究会に参加し、保育・授業や保育研究・授業研究の様態を理解し、今後の附属校園における研究と自身の研究との関連を学ぶ。							
研修の到達目標							
(1) 附属校園における保育・授業の様態を説明することができる。				(3) 附属校園における保育・授業や学校経営・経営方針の実現を自らの研究を通して図れるよう方策を見つることができる。			
(2) 附属校園の学校経営・経営方針を説明できる。							
研修の概要							
教育学部附属校園における研究会における保育・授業を観察し、その後の保育研究・授業研究の方法について学習する。							
また、附属校園が独自に立案し、実施している校園における研究テーマと、実際に行われている保育実践・授業実践とを対比し、今後の附属校園における研究の方向性に自らの研究が活かせるよう方策を考える。							
研究会に併せて行われる講演会に参加し、次の教育課題を理解し、新たな研究シーズに気付くことができる。							
なお、附属校園は、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校とする。							
学習項目							
1. 附属校園における保育・授業の観察				4. 共同研究に向けた具体的な方策を見つける			
2. 附属校園における保育・授業に関する保育研究・授業研究会の観察				5. 保育研究会・授業研究会または講演会の内容と自らの研究の関連についてレポートの形でまとめる			
3. 附属校園が自ら設定した研究の報告を知る							
研修時間外に求められる課題に関する情報							
附属校園のいずれか1校を選び、その他の校園と比較しつつ、レポートの形でまとめる。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
なし							
連絡先		統括研究コーディネーター					
参照ホームページ							
その他		附属校園により内容が異なるため、1年間に複数の研究会への参加を認める。 毎年、内容が異なるため、複数回の受講を認める。また、初任1年目は、受講を強く推奨する。					

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	教育能力開発プログラム		
時間割番号	E315	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	小林 直人 (Naoto KOBAYASHI)						
研修題目 アンサーパッド(クlickカー)を用いたアクティブ・ラーニング入門 (an introduction to Active Learning)							
研修のキーワード アクティブ・ラーニング(active learning)、ピア・インストラクション(Peer Instruction)、大人数講義(large scale lectures)							
研修の目的 大人数の講義でも学生の授業への参加を促し能動的に学ぶことを促すことができる授業方法として、アンサーパッド(クlickカー)を用いたピア・インストラクションの事例を紹介する。また、アクティブ・ラーニングの考え方全般についても学ぶ。							
研修の到達目標							
(1)大人数講義の長所と短所を挙げるができる。 (2)ピア・インストラクションを用いた授業の流れを説明できる。				(3)ピア・インストラクションで用いられる ConcepTest を作成できる。 (4)アクティブ・ラーニングの手法を用いた学生参加型の授業を実践できる。			
研修の概要 医学教育のグローバル・スタンダードでは、一方的に講義を聴くタイプの授業ではなく、アクティブ・ラーニングの手法を用いた学生参加型の授業を実践していることが求められる。愛媛大学医学部でもそのためのアンサーパッド(クlickカー)を購入し、これまでになかった授業を展開することを目指している。本講習では、アンサーパッド(クlickカー)を用いたピア・インストラクションを実際に体験し、医学教育においてどのような内容に適した授業スタイルなのかを考え、さらに自らの授業で実践できるようになることを目指す。							
学習項目							
1. 大人数講義の長所と短所 2. 大人数講義におけるアクティブ・ラーニングの実例				3. ピア・インストラクションを用いた授業の流れ 4. ピア・インストラクションのための小テスト(ConcepTest) 5. ピア・インストラクションを用いた授業の長所と短所			
研修時間外に求められる課題に関する情報 予め「アクティブ・ラーニング」や「ピア・インストラクション」をキーワードとしてネット上で検索するか、または下記の文献によって、基礎的な情報を得ておくことが望ましい。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) 高田和生『アクティブラーニング:主体的で効果的な学習を可能にする授業とは』、日本内科学会雑誌、104(12):2498-2507, 2015 蔣妃『大人数講義で行うアクティブラーニング ピアインストラクション』、看護教育、55(5):398-404, 2014							
連絡先		小林直人 naoto@m.ehime-u.ac.jp					
参照ホームページ		http://www.kals.c.u-tokyo.ac.jp/dalt/15-minutes/					
その他		9月に重信キャンパスにおいて開講する。日程は後日、メール・掲示等で周知する。					

開講年度	毎年度	開講学期	夏学期	プログラム区分	教育能力開発プログラム		
時間割番号	E316	必修・選択	選択	推奨受講年度	1～3年目	時間数	2
担当講師	小林 直人 (Naoto KOBAYASHI)						
研修題目 医科共用試験CBTのための多肢選択型試験問題の作成入門 (an introduction to multiple-choice exams)							
研修のキーワード CBT (computer-based test)、EMI問題(exams with expanded multiple items)、医科共用試験 (common achievement test for medical students)							
研修の目的 医学科4回生が受験する医科共用試験CBTのための作問を通して、良質な多肢選択型試験問題を作成するための基本的な技法を学ぶ。また、国家試験も含めて、最近の多肢選択型試験問題(extended matching items [EMI]、など)の傾向について理解する。							
研修の到達目標							
(1) 客観的試験問題の種類を列挙できる。 (2) 多肢選択型試験問題の長所と短所を指摘できる。				(3) 多肢選択型試験問題、特にEMI形式の問題を作成できる。 (4) 医科共用試験(CBT+OSCE)の意義を説明できる。			
研修の概要 医学科4回生が受験する医科共用試験では、技能と態度を測定する臨床実技試験(OSCE)とならんで、知識や理解力を測定ためにコンピューターを用いて解答するCBTが行われている。共用試験に合格することは、医学生が臨床実習を行う上での医師法上の違法性を阻却する事由の一つと考えられている。 共用試験CBTは出題数が320問、解答時間が6時間にわたる試験であるため、出題形式に制約が多い。本講習では、医科共用試験の意義やその中におけるCBTの特徴、さらに実際に良問を作成する上での注意事項を学び、学んだ知識を共用試験の作問だけでなく各講座が作成する定期試験の問題作成にも活かすことを目指している。							
学習項目							
1. 医科共用試験の意義 2. 医科共用試験のCBT 3. CBTの問題形式				4. EMI問題(exams with expanded multiple items)の形式 5. より良い問題にするためのブラッシュ・アップ 6. 客観的試験問題の長所と限界			
研修時間外に求められる課題に関する情報 医学科教員であれば、共用試験の基礎知識を得ておくことが望ましい(医療系共用試験実施評価機構のウェブサイト参照のこと： http://www.cato.umin.jp/)。							
参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書)							
連絡先		小林直人 naoto@m.ehime-u.ac.jp					
参照ホームページ		http://www.cato.umin.jp/					
その他		重信キャンパスにおいて開講する。医科CBTの問題作成依頼の説明会を兼ねるが、看護学科や他学部の教員も歓迎します。					